



其日庵歲旦句集

其日庵
歲旦句集
全



○卷尾一、兩年とある

天明六年也

乙酉上巳夕日向雨石

此弟以後人の要感

享保二年 有違

津輕藩

鈴木氏



頌

唯はの風さやや松蔭

風月夜

祖長

梅の香にわ月と息はる

昔もも枝と春もや

頌

初加多れ

くも取中くく

珍奇者

未しきのいふはるる言ふ

志孝

候搦也其よ奉る候山



頌

上総

う白ん明く清し候れ新

采

之

神田道進

耳しく叙賣古れ候

以年や活ぶ園の清道

頌

たにふれ山も物之初日新

瓢水

上総迎節

縁拂や母れたる梅核

頌

まのふれ芽は吹来風の初日

富吟

上総久留里

清く雪に白くはかしく此師を

頌

浪も漣の波も月之蒔油光

湖光

音ののりとも留せたる窓の

門の霞己ら舞波やさき時

頌

あき高の小倉の影々 田舎村

露路翠

凡紅霞流ふ高河うりも葉揺

十二支はきりり年れ初夜

頌

えんらや毅者いしよこみかのみ
其丈

しんらりも喜の望のしよみか橋

瞬いよのしよもくしんらの後

頌

ふるりもくの出をやまの者
鯉川

しんらりも喜の望のしよみか橋

瞬いよのしよもくしんらの後



頌

中々々々々々々々々々

如髮

夫々代書

城々青々々々々々



頌

おきけて、物故最也、柳才
在大坂
夕可居
白芥

枝原中宛書

頌

九万里一寄
寄書物の謡

河州

岩田社

葛屋

燦掃やうさひ清の程

八

頌

舟の夜安く感りうそ船の頭

孤雲

花の咲あけはきりて柳

十處誓の楫亦乃くそ此柳

頌

ほろろ茶もわく風を架の夾 井古

知豆菴

山川や心の市あり

海と山

頌 句順至來記

喰搦や代々の空の成るは山 小岩 雲知

極系と地獄の寸の年の坂 眉月

喰ほろろや海山屋に坐す 瀆

芳屋の赤句一玉の成るは山

六ツ目

東風交るくちもかほし月のは 野島

ちまき丸くもくもくいと柳

柳の笑ひ夢のうらみの境

常盤木の枝と原一羽の鳥 糸道

袖、あまは空へ入る風は

日暮るる、浄代の堂々たる年の布

四ツ目

いざよひをいよのこい地の春 巨水

梅にに啼る女川草飯が

春をく解揚何のあまが

梅岡轉君より 群詠園の号成
を梅はけりうれ

詠那ら日如我情こり宿の昔 平水

雪く日さく打他く言問ふ

幕枝く片枝い妙せよ本徳心 山長

雪う羽子や松子に揺る木の枝

いざよひがかりんこ伴る梅が

よの歌とこくくも嬉等が

雪うく波流ふ彩や松の雲 松里

ソリより東風の光りや城壁

よ良きよやねさに浮る浄が

あまのこいひはあまのこいひ

あまのこいひはあまのこいひ

舎つや事かぬり紙

昔もや知く吹をよ

然とにい下戸のぬれは

あやや荏苒色し

をぬまて揺れよのよ

短きあし木に

新居く、乾

鶴鶴の懐

借家かゝ新

新中やま

野萬

二

野萬

二

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

借家かゝ新

新中やま

鶴鶴の懐

短きあし木に

をぬまて揺れよのよ

舎つや事かぬり紙

昔もや知く吹をよ

然とにい下戸のぬれは

あやや荏苒色し

をぬまて揺れよのよ

短きあし木に

新居く、乾

鶴鶴の懐

借家かゝ新

新中やま

鶴鶴の懐

短きあし木に

をぬまて揺れよのよ

舎つや事かぬり紙

昔もや知く吹をよ

然とにい下戸のぬれは

野萬

二

野萬

二

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

野萬

蝶ニウ凡成丸了目和る由

一とせはえの正し地也疎おの

万葉や沫の解るるに

價ある凡のくちや

人よく芥流く

門程く樹くの甚る

堂の成りれ丸るや

事無きこし時の松も

初鹿かい信ふや

柳短く甚結門の

免優

永我

左楼

之りやの卷乃未

其大表連 其柳

或と乃初絶さ

或才と初丹

石を門常や

本よ余も

廣善く

初勢之

蝶掃之

又字く

羽を改 五雲

等水

河さめ

綱男 由て

夢の香の煙をけしあけ人草を
いよくとし酔の越さやの波
扇をさるる夢りあよめにさる鳥
船をたを繋ささくさくから御下
本懸るる小所を齒原のの神

武生麦連

まのまの何れもいふまのまの
茶知り飯の社や蝶拂い
河をたさるに初は新のまの細
大樽の歌すけやのりた

青亀

江舟の歌

武生赤川邊

白雲の十たつたふり志の書
解るるや空所もかく鶴の
吹やめく己の鹿の鹿
わさるるをさけ殿さ
新のまの千の松系やのま
鹿のまの松系やのま
初はまの松系やのま

並江

藤志

伍柳

豊ののち〜に宮の果を
ま〜く田舎の羽と伸と

武邑野連
和山改

蘭秀

貴この耐〜の夜を
梅り梅り河井掛名や梅拂い
明の春安は〜や同系

歌遊

歌り〜袋〜梅り〜

相大山連

五原

初日の〜梅り梅り
合の〜梅梅り

枕〜梅り〜切〜

万里

梅り梅りの周〜奥河り大御
み梅り〜梅り〜

房別連
千代煮山

風の梅り梅り梅り梅り

正木

竹丸

梅り梅り梅り梅り梅り梅り

三別吉良

五雷

梅り梅り梅り梅り梅り梅り

梅り梅り梅り梅り梅り梅り

祇孫

菖蒲の根に白くさすや木の皮
糠掃や祝ふ松よのこき叟

まめいさく市井と書て

葵の初や是もた舞の門の市

鶯のこゝろや夏の天草松

葵もや神代のお返し一奏

掛る乃小鶯のおや夏の門

松林の鈴いよと書く柳の

よ也一或人よんをさるる草花

月夜の定花もあつて初春

、
、

白亀

、
咫徑

、
橘賀

、
白寶

門前の芽の梅溜るや夏の一本

人心むけのまめいさく市井

をさるる梅溜るや夏の掃

赤い梅溜るや夏の掃

園も又柳を吹く一梅の皮

日く梅の芽にさす初春

一ともの月夜の梅や深草松

初春のやさくさく田舎の草

春風の一雨の力さるる草花

耐梅しりふ思梅

、
林鳥

、
牛歩

、
如柳

、
柳紅

、
、

山も歌も笑ひはなれり川の頭

蓮佐

花も藤もさきさきこころを

雨も梅もさきさき初春の梅

う輪もさきさき清く初春の波

吐風

空も解もさきさき深きうらまの池

之も初もさきさき初春の梅

野秋

来冬もさきさき梅もさきさき

師もさきさき梅もさきさき

初春もさきさき梅もさきさき

野谷

初春もさきさき梅もさきさき

万葉もさきさき梅もさきさき

春も初もさきさき梅もさきさき

野亭

人も初もさきさき梅もさきさき

的場もさきさき梅もさきさき

いけのりもさきさき梅もさきさき

野紅

を初もさきさき梅もさきさき

昔も初もさきさき梅もさきさき

居座もさきさき梅もさきさき

逸守

初も初もさきさき梅もさきさき

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

ゆきや風も... 鶴和

鶴和

鶴和

逸夫

小名木

新白布

鼠水

東調

魚淵

常州

久下田

鶴遊尼

同、髪と波打ぬ髪にて名も 奥津 素閣

河原の人もさかしくの市 下サ布川 無的

山の笑も心細き序 武金甲 巨柳

のりもやさしく散るん 流の序 巨柳

福徳の字入を伝や 花の基 巨柳

鳴戸越も人抄 大三十 柳川

初塘離や 家も二ノ人の神 柳川

の、忘れまじ 並し 提屋

何吉の並本 松 四橋

解搗や 産 四橋

賢平目 山 素鍵

初子 牛 素鍵

之、や ま 其窓

象、彩と 遊 野鹿

牛、追 心 野鹿

元、ちや 山 野鹿

考、合 心 野白

法、く ふ 野白

燦、の 心 野白

混流の中しにまのりし初鳥 一

さきさき新顔心もさ

えりれ貢座のこし福香件 湖月

摘るや柳しけし及懸

直の汲昇の戸はく雑の香

世保船の十二とく書初露 三曉

堂の筒やの柳も階とて

玉とれの内とゆしや及

心よきとまの目とるも梅の香 東木

初も多れ通しとて梅も垣根

心よきとまのしりりや大茶候

祿の中しに候衣や水代の身 野松

初乃花答れ水解てより

けしゆしとて越りや及の雲

二ツ目

海山の暎し月や門扉 岸松

堂の息れ漏りたきと鹿

病も合候しりれと

清らうにあし入しん研鹽 千雀

鴨しゆのほ入乃柄袋

かゝる遊の戸も由きつら 東湖 野景

周々東乃松の葉を足月お

芽るるし漆の葉の大きき

一敷しつぬり柳や午の末 陶渚

しよまらうれおさふより柳が

子宝のせほしきしよの周

ゆくの戸も笑し初りし松の夢 遊子

元年の條も流らん此程月

初まや松の條も深遠し 了

ふもきものほりりや大茶依

祿の中は紙衣や巾代の末 野松

物乃死答れ求解てより

けしつゝ来て越りや又の雲

ニツ目

海山の睦し日や門扉 會 岸松

夢の息をけ泥りをきき鹿

をよむいあらう鬼とる細ぬく

清くくいあふいさん研鹽 千雀

鴨しは入乃柄袋

かゝの〜と遊の〜
東湖改 野景

周れおの松の葉をいそいで
身もくもし漆の意あふ人より

一敷し〜ぬり柳や午の身
陶渚

しよまらうれおの葉よより柳が

子宝のせねしきし〜の園

ゆきの戸の笑い初〜松の多
遊子

化年の葉も流らん此程月

初〜や松の葉も流せし
うら

学〜遊礼〜たる遊の心

素肩〜張笑ひ初り〜葉拂

おのり〜き〜女波男波や初會の
孤峯

柳〜古井〜の宇下建〜りり

人〜も〜ふ〜ふ〜の冥

之らや〜津り初〜の冥かこあ
南浦

さ〜〜〜成〜つ〜た〜ぢ〜ん〜の〜波

葉〜

掛〜の〜必〜服〜や〜深〜松〜の〜緋〜書〜件
彦雄

葉〜拂〜や〜初〜〜の〜初〜初〜
文阿



梅史

川城一城に下りて暮るる處に 一馬
 一馬に下りて暮るる處に 里別
 穀物のお傍に暮るる處に 其窓
 龍人の龍に暮るる處に 岸松
 雲拂に暮るる處に 志丈
 新了の暮るる處に 梅史

はれり娘の暮るる處に 龍峯
 暮るる處に 巨水
 手清に暮るる處に 吐屋
 美草に暮るる處に 龜後
 丹に暮るる處に 永我
 かきけに暮るる處に 湖光
 涼知舟の暮るる處に 野牛
 泣に暮るる處に 野谷
 大切に暮るる處に 扇多
 津に暮るる處に 左様

月白く... 山花... 小田... 本音... 夢人... 中... 一解... 志... 血... 禮... 料...

巨水 一馬 里如 空窓 岩松 志文 梅史 孤家 幾後 水我

吾... 人... 月... 笑... 至... 破... 和... 取... 守...

湖克 吐令 左櫻 野牛 嵐多 梅史 野岩 岸松 孤奉 左櫻

春興

雪のしづかにのちのちのちのち

浪花

二六菴

正月とゆるりと見のたまたま

甲列

稻後

そはくさくさ乃波乃海女

信長塚

志十

蝶をくらり石のまきと乃萱

雲知

芥搦く梳いと思ひやり

白麻

うしやうしやうとまきとまき

不二翁

撥解の及ぶたよりりまきの雨

獻壽

身身子風流とあて鏡日

左梅

七折中折流の移も同と後

李風

翅着くかきかきかきかき

鯨巴

大呂

彩のそはくさくさ乃波乃海女

浪花

丁江

たのしき花鳥の移も同と後

敬林

餅の舌奥に花女の敷く旬

星衣

曉の之味縁もゆの柳を水

宗壽

序をたゆみし通やと忘

百丸

まのこし成ゆのそ人の心持

法雨

歳暮

外局一二月廿二日

石漱

一と成集丁年の家上門

馬山

支の杖や空く書り一万石

千路

出直い大進ふよのや年の市

信阿

支の関解のえきき織くりか

五且

枕書

夢へりたのめりや空と海

里州

支一を笑うて是のくか

吐風

ぢんだ瓶持てい人並の師を

謙堂

大吹りの成かして又徳ん

寛美

世中一細き袴やひの音

灌河

昔まき平は飾まき袖の匂

鳥林

さ波や油も師乞の舟つひ

蒼谷

古障子あふれとひもそり

宗瑞

御逢入り船人のたひら

枕隣

菜尾

か記節のむらぎや又を

雪中菴

の布世寄く唾いかりり

雪萬

の流同くくく世切小

回麥

植るやの菊陽ら又のそ

嵐亭

大ゆら正年の鶴くおりり

完來

村の彦の江寄くや成是成

房川名 里丸

河く此れ成く道りや又の布

勝山 宣明

うりくおのいさるくりり

吉六 逸雅

ふやーちのぢ

いーのそや子筋のの夜

下廿小全 立砂

神代の名何のうー年男

上廿正 光山

はるやもあふあくも流松重

我泉

ののや矢を流るも流田を

徳布

はるくは流るる成夜記り

茂松

そいあまのもんまうねい

曇二

次く年や流る子そくは

菊露

押くも人成修や年一の布

逸窓

たーこのくら梅やれ池

桂別

月可くして郵形安(年一夜) 逸字

五色墨連

多隆の娘(さぶね)の夜 楚若
多隆の毎帰(さぶね)の市所 安袋
行(さぶね)の(さぶね)の扇所 梅人
孫掃(さぶね)や都大治の(さぶね) 柳門

大尾

解福の(さぶね)の(さぶね) 素丸
次(さぶね)の(さぶね)の(さぶね)

丙午正月吉辰

其日養定會毎月十日 卯三時迄

